

(B) (寛仁二年十月)十六日乙巳、今日、女御藤原(⑤)を以て皇后に立つるの日なり。(中略)太閤、下官を招き呼びて云く、「和歌を読まむと欲す。必ず和すべし」者。答へて云く、「何ぞ和し奉らざらむや」。又云ふ、「誇りたる歌になむ有る。但し宿構しゆくこうに非ず」者。「此の世をば我が世とぞ思ふ望月の かけたることも無しと思へば」。余申して云く、「御歌優美なり。酬答しゅうとうに方無し、満座只此の御歌を誦すべし。^⑦(中略)」と。諸卿、余の言に響応して数度吟詠す。太閤和解して殊に和を責めず。

(『小右記』)

問6 文中の(⑤)に入る語句は何か。

(ア) 彰子 (イ) 嬉子 (ウ) 威子

問7 下線部⑥「太閤」とは、藤原道長のことである。彼が晩年に造営し、そこで生涯を終えた寺院はどれか。

(ア) 法勝寺 (イ) 法成寺 (ウ) 平等院

問8 藤原道長の権勢を、登場人物の大宅世継に批判的に語らせた歴史物語は何か。

(ア) 『大鏡』 (イ) 『御堂関白記』 (ウ) 『栄華物語』

問9 下線部⑦「余」とは、誰のことか。

(ア) 藤原宗忠 (イ) 藤原行成 (ウ) 藤原実資

問10 この史料が記された翌年の寛仁3年(1019)、沿海州地方に住む女真族が対馬・壱岐・北九州などを襲う事件があった。女真族がのちに、中国北部で建てた王朝は何か。

(ア) 金 (イ) 元 (ウ) 遼